

教科書原本と拡大教科書のサンプル

以下のサンプル掲載ページでは、まず、サンプルの一覧を、本文中の方針の文章を簡略化したものを付したうえで、掲載ページ数を末尾に示します。

また、そこでは、どの章のどの項目のものであるかを最初に記し、その本文でのページをカッコ内に示しています。

次いで、サンプルを呈示します。

各サンプルにおいて、一部をのぞいて、教科書原本の例を掲載した後、それに対しての拡大教科書の例を掲載しています。サンプル番号1)の空白ページの扱いなど、一部、拡大教科書の例のみのものがあります。

また、原本は□の枠で、拡大本は□の枠で囲っています。

また、教科書原本の例の上部に本文掲載の各方針の文章を記し、拡大教科書の例の上部に、そのサンプルでの具体的な配慮点、変更部分などについて、簡単な解説を記しています。

◆サンプル一覧

第6章 編集の基本方針

■ 1. 基本事項 (本文22 ページ) より

- | | |
|---------------------------------------|----|
| 1) 空白ページでは、ページ番号をつける位置に「空白ページ」と記す。 | 43 |
| 2) - 1. 各分冊の目次では、各分冊が原本の何ページであることを示す。 | 44 |
| 2) - 2. 分冊にまたがって利用する資料について、目次に記載する。 | 44 |
| 3) 資料編など分冊時共通の項目はページ裁ち落とし部にカラーをつける。 | 46 |

■ 2. 字体、大きさ、字間、行間 (本文25 ページ) より

この項目に特に対応したサンプルはありません。

字体、大きさなどの実際については、他の項目に対応して掲載したサンプルをご参照ください。

■ 3. 文字、写真・図などの配色、明度、コントラスト (本文27 ページ) より

- | | |
|-------------------------------|----|
| 4) 色の違いでは分かりにくい場合に各色の明度差をつける。 | 49 |
|-------------------------------|----|

■ 4. レイアウト（各要素の配置）（本文27 ページ）より

5) できる限り原本の流れに沿ってレイアウトする。	53
6) サイドに提示されている情報を、本文のどこに入れこんで配置するか。	56
7) 同時に提示することが重要な要素をまとめて配置するようにする。	60
8) また、同時に呈示することが必要な要素のみ先行的にまとめて配置する。	62
9) コラムや実験など、囲みの中をひとかたまりと見なして、まとめて配置。	66
10) 上段・下段ごとにページを分けてレイアウトする。	79
11) 写真・図と文字による説明については、文字による説明を先に示す。	84
12) また、理科の実験方法の説明など、文字情報を図の先に示す。	86
13) 実験の注意事項などは、原則として当該実験の先頭に配置する。	88
14) 左右見開きの章は、できる限り左ページからはじまるようにする。	90

■ 5. 写真、図などの拡大の方針（本文28 ページ）より

15) - 1. 写真や図に関しては、そのすべてを一律には拡大しない。	92
16) 同種の地図、イラストなどの拡大率をそろえる。	98
17) 横向き（正位置）および縦向きの見開き使用も考慮する。	100

第7章 文字、写真・図などの編集方針

■ 1. 文字データの編集

1. 1. 基本事項（本文30 ページ）より

18) 強調表現には「平成ゴシック W7」（線が太い）を使用。	102
19) 「+」「-」「・・・」「-」などの記号は、前後の文字と間隔をあける。	105
2) - 3. 点線と数字などとの間に間隔をとる。	44
※これについては前掲の同サンプルです。	
20) - 1. ルビの長いものについて漢字のマス間は多少空けるにとどめる。	106
20) - 2. ルビのある行間は広めにとり、ルビのない行間も同じ広さに。	106
21) 吹き出しのなかの文字は、本文と同じ横書きを原則とする。	108

1. 2. 文字の背景に関わる処理（本文31 ページ）より

22) 文字の背景の色アミは、同色系の濃い色の線で囲む。	110
23) キャラクターのせりふの地の色についても同様の処理を行う。	112
24) 白抜き文字は黒文字にする。	115
25) 影付きの文字は、その影をとり、通常の文字とする。	118
26) 注意を示す赤文字は黒文字にしたうえで、赤枠で囲むようにする。	120

■ 2. 写真と図の編集

2. 1. 写真と図に共通の事項（本文32 ページ）より

- 2 7) 写真・図と表題や説明文のブロックを一つの罫線で囲む。 122
- 2 8) ページの境目にも重要な情報がある写真・図は、境目に余白を取る。 124
- 2 9) 写真のなかの文字は原則として白長方形背景の黒文字にする。 128
- 3 0) ただし、「白エッチ」（文字の輪郭に沿って白色背景）も用いる。 130

2. 2. 写真の編集（本文32 ページ）より

- 3 1) 透明なものは、境界が明確になるように輪郭（縁）を実線で追記。 132
- 3 2) 写真が重なる所は個々の写真の区別がつくように白枠を付ける。 136

2. 3. 図の編集（本文32 ページ）より

- 3 3) 引き出し線、図中のコメントは太めに書き直す。 138
- 3 4) 薄い色の図版などは、輪郭が判別できるよう太い縁を追加する。 140
- 3 5) まぎらわしいグラデーションは削除し、均一の色にする。 142
- 3 6) 乾電池など方向に意味があるものは、太い輪郭線で向きを強調する。 144
- 3 7) - 1. 分かりにくい矢印について他に分かりやすい矢印を追加する。 146
- 3 8) 見開きページにまたがる矢印について矢印を二つに分割する。 149
- 3 9) - 1. スケールと地図の拡大率が同じになるように注意する。 152
- 4 0) 手書きのイラスト、表などは、文字などの打ち直しをしない。 154
- 4 1) 横配置の流れ図を、縦配置に変えることも考慮する。 156
- 4 2) 別ページに読みとりを補助するページ（テキストだけなど）を用意。 158

第 8 章 表、グラフ、地図などの編集方針

■ 1. 表（本文34 ページ）より

- 4 3) 行によって背景色が違うときには、白と黄、白と薄いグレーが見やすい。 160

■ 2. グラフ（本文34 ページ）より

- 4 4) 理科のグラフの文字、数値についての処理。 164
- 4 5) 社会のグラフについて線を太くするのが基本である。 168
- 4 6) グラフの大きさは、中の数字や文字が分かる大きさを確保する。 172
- 4 7) 棒グラフ中に入れる数字・項目名等の文字は左右どちらかに寄せる。 174
- 4 8) 厚みのあるグラフ、斜めのグラフは、シンプルな図に変更する。 176

■ 3 . 地図（本文34 ページ）より

3 9) - 2. 地図中の文字や数字などの拡大を行う。 152

※これは前掲の同サンプルです。

4 9) 地図中の文字や数字などの拡大を行う。 178

5 0) 地名など多くの文字は、文字の境界をあけ、項目ごとに線で囲む。 180

■ 4 . 年表（本文35 ページ）より

5 1) -1. 日本の歩みと世界の歩みの両方が見られるようにする。 182

5 1) -2. ページの切り替わりところでは、時代の区切れからみて改行。 182

■ 5 . 天気図（本文35 ページ）より

1 5) - 2. 日本列島に対しての雲の位置の変化が分かるように配慮する。 93

※これについては前掲の同サンプルです。

■ 6 . 天体図（本文35 ページ）より

5 2) 星座の図、写真など、必要な星の点を強調する。 186

■ 7 . フローチャート（本文35 ページ）より

5 3) 説明文字は、背景色を生かしたラインで囲むことで関連を保つ。 188

5 4) ラインが文字に隠れることでチャートの流れが変わらないようにする。 190

5 5) 白背景で黒文字とする。なるべくなら打ち直しが望ましい。 192

第 9 章 その他の編集上の配慮事項（本文36 ページ）より

3 7) - 2. 該当学年での学習のポイントに応じて、レイアウトを考慮する。 146

※これについては前掲の同サンプルです。

5 6) 重要なものが拡大した文字によって隠れないように配慮する。 194

5 7) 文字の背景の図柄・線などを削除する。 196

5 8) 吹き出しに顔を入れる位置を統一する。 200

5 9) 顔のイラストつき文章で、顔と行を一致させ、かつ、行間をあける。 202

※注

各ページ周囲の罫色



：原本教科書



：拡大教科書